

JEAN-FRANCOIS MILLET

ジャン=フランソワ・ミレー(1814~1875)



桶の水を空ける女

ガラスステロ版DEL'ART M28

1862年作

28.5×22.5cm

バルビゾン派七星・真の農民画家

JEAN-FRANCOIS MILLET

ジャン＝フランソワ・ミレー (1814～1875)



略 歴

- 1814 ノルマンディ地方、グリュシーの裕福な農家に生まれる。
- 1837 ラングロワの推薦によりシェルブール市の奨学金を得てパリへ
- 1840 友人の父を描いた肖像画『ルフラン氏の肖像』がサロンに初入選
- 1846 後のバルビゾン派のトロワイヨン、ディアズ、ジャック、ルソーらと出会う。農村をテーマとした新しい作風に変化していく
- 1853 サロンに『種をまく人』を出品
- 1855 パリ万博に『接ぎ木する人』を出品し好評
- 1855 エッチング作品を制作
- 1857 サロンに『落ち穂拾い』を出品
- 1859 依頼により『晩鐘』を制作。
- 1862 パリ公会堂での美術家連合サークル展に『井戸から戻る女』を出品し評判となる
- 1864 『羊飼いの少女』がサロンで一等賞を受賞
- 1868 レジオン・ドヌール勲章を受章
- 1870 既に米国に収集家があり、デュラン＝リュエルが主要画商となる
- 1875 バビルゾンにて死去。友人ルソーと墓地を隣にして埋葬

ミレーは生涯に2点、写真家で友人のウジェーヌ・キュブリエの誘いでガラス版画を制作した。ガラス版画とは当時の写真術の流行による日光写真の原理を応用したもので、ガラス板にコロディオン液や印刷インクを塗り、鉄筆などで線描をしてネガ原版を作り感光紙に焼き付けて現像する。裏焼きが可能であり、凹凸のないエッチングの様な細かく繊細な線の美しさと、タンポやブラシで厚塗りや擦筆のような絵画的効果も可能な技法として、コローやドービニーが愛好した。ここでの構図はモデルが右向きの油彩画に比べて左向きになっている。油彩画と同じ向きで写せば完成作は左向きとなる。ボストン美術館にはこの版画の習作素描があるほか、ルーブル美術館にはパステル版が残されており、ミレーのこの画題に対する執着ぶりが良く分かる。

作品名 桶の水を空ける女 (1862年)

種類 ガラスステロ版・DE L'ART M28

サイズ 28.5×22.5cm